様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 5 月 30 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）
研究期間：2008～2009
課題番号：20820048
研究課題名（和文）
南アジア古代絵画の伝播と変容ーアジャンターからティヴァンカまでー
研究課題名（英文）
Development of the Ancient South Indian Paintings -From Ajanta to Tivanka-

研究代表者
福山　泰子（FUKUYAMA YASUKO）
中部大学 全学共通教育室 講師
研究者番号：40513338

研究成果の概要（和文）：
インド古代絵画の頂点アジャンター壁画を起点に、南インド、スリランカへと明らかに暈取りなど描法の伝統は受け継がれるが、特にスリランカのティヴァンカの物語壁画が整然とフリーズ状の画面を用い、遠近感のない空間に場面を併置する表現で、キャンディ時代の壁画には一般的な表現方法が既にここで確立され、一方、一部主題における寺院空間の位階と構図の連関も明らかとなった。なお、本研究で得た南アジアの豊富な壁画画像資料も今後の研究に貴重となる。

研究成果の概要（英文）：
In a stylistic point of view such as gradation and the line-drawing, the influence of the Ajanta paintings, which enjoyed the achievement of the classical style in the early Indian paintings evidently spread toward Sri Lanka through South Indian with some adaptation in each region. However, the narrative paintings in Tivanka in the 12th-13th centuries show the systematic arrangement of the scenes within the frieze bands without the consideration for perspective. Such characteristic is typical in the paintings in the Kandy period. Further, the correlation between the architectural hierarchy and the composition of the narrative paintings is recognized. A substantial sum of photograph data with the latest information collected in this study are also important for the further study of Buddhist Art in South Asia.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,330,000	399,000	1,729,000
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
年度			
総　計	2,530,000	759,000	3,289,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：美学・美術史
キーワード：(1)南アジア　(2)インド　(3)スリランカ　(4)アジャンター　(5)ティヴァンカ

１．研究開始当初の背景

(1)本研究は、南インドやスリランカ壁画（アヌラーダプラ時代ーポロンナールワ時代）が、その豊かな宗教や芸術文化を有し、インド古代絵画に比して豊富な遺例を残すにも拘らず、シーギリヤ壁画やティヴァンカ壁画を含めたスリランカ古代・中世壁画に関する本格的研究が乏しいという現状を端緒とする。この状況は南インドにおいても同様である。

(2)デカン高原に華開いたアジャンター壁画の伝統が南インドに伝播し、その南インドの諸王朝から政治的にも文化的にも影響を受けたのがスリランカであり、南アジアという広い視野の中で南アジア絵画の流れを考え、そのなかで改めてアジャンターの再評価がなされるべきである。

２．研究の目的

本研究は5世紀のアジャンター壁画、いわゆる後期壁画を起点に、南インド（7~11世紀）、さらにスリランカの古代(5ー7世紀)・中世壁画(8ー13世紀)まで射程を拡げ、各地域・時代の作例の様式的・図像的特徴を明らかにしつつ、インド古代絵画の伝統がいかに伝播し、変容したのか、南アジア絵画の流れを浮き彫りにする。

３．研究の方法

(1)実地調査による画像資料の集成を作成すべく、各年度、インドおよびスリランカ両地域を区分して実地調査を実施する。また現存しない壁画については残されたコロンボ国立博物館内に保存される模写も比較検討として加える（実際に調査を実施した遺跡については４.成果を参照)。

(2)先学の研究に加え、『マハーヴァンサ』『チュッラヴァンサ』などパーリ語文献、『大唐西域記』など中国僧の記述にみる王朝史、寺史および寺院の建立寄進・修復、尊像の造立に関する記述の整理を行い、絵画技法についても併せて調査する。

(3)(1)をもとに描線の肥痩や彩色方法、衣や衣襞線の表現、形態把握など様式的特徴を、同時代・同地域の彫刻表現も併せて比較検討する。また、壁画を寺院荘厳の一媒体として建築構造との連関で見直す。

(4)(1)~(3)をまとめ、インドからスリランカに至る南アジアにおけるインド古代絵画の伝統がいかに伝播し、各地で展開し、独自の様式美を確立したのか、その諸相を浮き彫りにする。

４．研究成果

(1)本研究に関わる遺跡および背景となる時代や仏教教団の関連資料を収集しつつ、実地調査を3回にわたって実施した。まず、2009年2~3月にアジャンター、エローラ、カンヘーリーなど西インドに残る5世紀から7世紀の仏教およびヒンドゥー教壁画、南インド（カンチープラム、タンジャヴール、プッラマンガイ）などヒンドゥー教およびジャイナ教寺院に描かれた壁画、スリランカではプッリゴーダ、コティヤガラ、ヒンダガラに加え、ティヴァンカ壁画に新たに生じる要素を受け継ぐキャンディ時代の絵画（スーリヤゴダ、デガルドゥルワ、バンバラガラ、シトゥルパウワ）について実地調査を行った。

同時並行的に、『マハーヴァンサ』『チュッラヴァンサ』など島史に当たり、スリランカ史、仏教史、遺跡に関する記述を抜粋するなどの文献整理を行い、島史を通して、王権とマハーヴァハーラやアバヤギリ、ジェータヴァナなどの派が時代毎に密接な関係を確立し、寺院領や布施を競っていた様子が窺え、王はサンガの論争に対する介入解決を行い、時折浄化を行う一方で、王による寺院の建造や僧団の建造物の修復、仏・菩薩像等の造立寄進が頻繁になされていたことが知られる。

また、『マンジュシュリー・チトラカルマシャーストラ』ほか、『シャーリプトラ』、『ルーパマーラー』など寺院建築や尊像制作、鋳造法を述べる文献からスリランカの絵画技法に関する箇所を調査した。ただし、絵画技法に言及する箇所は専ら下地処理に関する言及のみで彩色法については言及がないことがわかった。

2009年度は8~9月にかけてアジャンターおよび中インド・東インドの遺跡および博物館調査を行った。本研究の終点にあるティヴァンカにおけるフリーズ画面における並列形式の場面展開との比較検討を行うため、アジャンター前期壁画に加え、中インドのサーンチー（現地）やバールフット（コルカタインド博物館蔵）にみられるようなフリーズ状区画に施された説話浮彫の調査を行った。

また2010年3月にスリランカ主要遺跡における再調査とアジャンターでの壁画調査を実施した。スリランカでは改めてシーギリヤ、ダンブッラ、アヌラーダプラ（ヴェッサギリヤ）、ポロンナールワ（ティヴァンカ）など5世紀から11世紀に属する遺例と、コロンボ近郊に位置するケラニヤの近世の制作になる寺院壁画を調査、それら壁画の撮影

を行い、画像資料の充実に努めた。上記の2回の実地調査は、コロンボ国立博物館副館長Senarath Wickramasinghe博士と行った。また、上記のWickramasinghe氏の尽力により、スリランカ考古局によって特別に遺跡調査と撮影が許可されたもので、殆ど日本に未紹介のスリランカ壁画の網羅的な壁画画像資料（島東南部を除く）が入手できた。これらは今後の南アジア絵画の研究において、かつ現状を留めた画像として貴重である。

(2) 様式的には上記2年間の実施した調査により、アジャンターの絵画表現はパッラヴァやチョーラなど南インドへ伝播し、スリランカでは南インドを介して、その伝統が伝えられたとみられる。古代から中世にかけてインド古代絵画に見る暈取りによる立体感や肥痩のある線描などは受け継がれるが、ポロンナールワ時代のティヴァンカでは徐々に空間の奥行きが排除され、より平面性が強まる傾向がみられ、かつ面貌表現や体躯の表現には多分に南インドのパッラヴァ朝およびチョーラ朝の様式を折衷したスリランカ彫刻独自の様式美の確立がみられることもわかった。この背景には、７ー８世紀におけるパッラヴァ朝へのシンハラ（スリランカ）王権側の政変による亡命と、パッラヴァ王朝の南インドの覇権獲得を巡るシンハラ王の援助、その見返りとしてパッラヴァ朝のシンハラ国王の復権への援助というように、一連の政治的・文化的相互依存関係があったことが指摘できる。11世紀初頭にスリランカに侵入したチョーラ朝については、スリランカの研究者によれば、スリランカを征服した敵として、シンハラ国はチョーラの文化を受け入れなかった、すなわちスリランカの様式との融合を敢えて拒否したという見解を示すが、11世紀中頃にシンハラの王（ヴィジャヤバフー１世）による復権をみた後、12~13 世紀に制作されたティヴァンカ壁画（『チュッラヴァンサ』によれば、パラクラーマバフー１世創建、パラクラーマバフー2 世修復）では様式的に多分にチョーラ朝のブロンズ像に共通する様式美を見出すことができる。

また、説話表現についてみると、インド初期仏教美術、アジャンター、そしてティヴァンカ（ポロンナールワ時代）、ダンブッラ、キャンディ時代の説話表現の様相を検討した結果、場面の分割に建造物や樹木が頻繁に用いられることはインド内部とスリランカの作例ともに共通し、ティヴァンカにおいては空間を充塡するために背景に樹木を配す初期インド仏教美術に通ずる表現、さらに建造物をやや遠近法を用いて表現し、感情の機微を表した顔貌表現、そして細部描写、アジャンター以来の暈取りによる立体感や肥痩のある線描というように、アジャンターの伝統を引く表現方法がみられることが判明した。しかし、円環構図や人物の大小の規模によって奥行きを表すといった意識はすでにティヴァンカにおいて稀薄で、背景の色面空間が格段に増加するガンポラ時代やさらに近世にあたるキャンディ時代の壁画では、先に述べた遠近法を用いた建造物表現も面貌による感情描写も完全に失われる。ただし、スリランカにおける古代・中世・近世壁画では一貫して雲や川といったモティーフが大画面だけでなくフリーズ画面中において場面を物語り、位階性を示す効果を示すだけでなく、他場面との明確な分離効果も有していることは特筆される。

(3)起点となったアジャンターでは、二種の授記説話図について、異文化地域からの仏教の思想的伝播とアジャンターにおける独自の説話解釈のコンテクストを論じ（５．雑誌論文(2)）、さらにアジャンター第17窟の「帝釈窟説法」と「生死輪廻図」の両主題のヴェランダにおける配置の意義と教義的連関について（学会発表(1)）、いずれも寺院の空間構造の視点から試論を提示した。

またティヴァンカ壁画も、入口から前室、仏殿にむかって各種の本生図、神々の参集、「従三十三天降下」などの仏伝図というように、寺院内の位階性と密接に結びつき、廻廊部におけるフリーズ画面では前生譚を説き、前室では神々の世界をもって人々を誘い、仏殿は仏殿内の大画面かつ動的な場面構成を利用し、恰も仏陀が寺院に降り立ち、そこに存在するかのように仏世界をつくり上げている。

上記のアジャンターをめぐる二つの説話研究では今後さらに、寺院建築の空間とその位階性に注目しつつ、再度ティヴァンカおよびアジャンターの仏教説話図、さらにインド初期に属するストゥーパをめぐる説話美術やガンダーラの仏教説話浮彫を取り上げ、美術と建築構造の相関性を考察する上で一指標となる。

(4)補足として20世紀初頭の模写や文献を精査し、現在では観察不可能な壁画に関する初期の見解や、重ねて他分野の研究者による保存科学の立場からの研究に立ち会うことで、彩色の順序、下地のプラスター処理といった新情報を得ることができた。スリランカの壁画に関しても近年保存科学の立場から成分分析等が徐々に行われており、総合的な比較検討が今後の課題となる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
(1)福山 泰子、アジャンターと日本、インド・日本文化遺産保護共同事業報告：アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業—2008年度（第１次ミッション）、独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所/Archaeological Survey of India, India編、依頼論文、Vol1, 2010, pp.13-29.

(2)福山 泰子、アジャンター石窟寺院にみる授記説話図について—五、六世紀におけるガンダーラ美術の影響の一事例として、佛教藝術、査読有、304、 2009、pp.3-6, 9-36

〔学会発表〕（計２件）
(1)福山 泰子、インドにおける帝釈窟説法図の図像的特徴について-アジャンター第17窟ヴェランダ右側壁壁画の解釈に関する一試論-、「ガンダーラ美術の資料集成とその統合的研究」、第４回研究会（科学研究費補助金基盤(A)における依頼発表）2009.11.15（龍谷大学）

(2)福山 泰子 アジャンター壁画、「アジャンター遺跡の保存修復にむけた専門者会議」2009.8.5（東京文化財研究所）

６．研究組織
(1)研究代表者
福山　泰子（FUKUYAMA YASUKO）
中部大学 全学共通教育室 講師
研究者番号：40513338

(2)研究分担者
無し

(3)連携研究者
無し